

会報

METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. **90**
2024年4月

CONTENTS

ぼてんしゃる

- 2** 産学連携、基礎商品講座、自主行動計画を実施、業界の未来に貢献する企画委員会の活動について
日本鍛圧機械工業会 企画委員会 委員長 株式会社 エイチアンドエフ 取締役社長 山田 烈史

2024暦年と2024年度の受注予想

- 3** 2024暦年の鍛圧機械受注予想は、前年見通しを若干下振れの3,670億円と予想
一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 調査統計委員会が作成

令和6年度、令和5年度補正 経済産業省関係予算と税制改正について

- 5** 新年度等予算、税制改正のうち、多くの製造事業者に関係する主な補助金などを紹介します。

INFORMATION FILING

- 8** MFエコマシン認証制度 2023年実績
9 MF技術大賞2024-2025 4月1日から募集開始! 奮ってご応募下さい!
10 日鍛工会員企業単独で応募いただける「MF新技術賞」が今回から新設されました!

MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展

- 11** 2024年7月1日より出展受付を開始します!

新製品情報

- 12** 2次元ファイバレーザ加工機:SPF4125/SFX2000D 澁谷工業株式会社

報告

- 13** 報告Ⅰ:日本鍛圧機械工業会 レーザ機器管理者講習会を実施。
報告Ⅱ:日本鍛圧機械工業会主催「第3回サーボプレス技術セミナー」を開催。
14 日本塑性加工学会 第357回 塑性加工シンポジウム 「スマート工場に向けたDX」～センシング技術の最新活用事例～の開催案内

INFORMATION FILING

- 14** 新聞報道から見た会員動向(2023年12月～2024年3月)

工業会の動き(1月～3月)

理事会

- 第84回(3月6日)日鍛工役員人事、2023年度事業報告と2024年度事業計画についてなど。

正副会長会

- 第49回(3月6日)日鍛工役員人事、叙勲褒章推薦についてなど。

新年懇親会

- (1月11日)東京アメリカンクラブ

委員会

- 産学連携推進分科会
 - 第25回(1月18日)研究発表、追加研究項目に関する意見・提案についてなど。
 - 第26回(3月19日 オンライン)今後の産学連携研究課題についてなど。
- 技術委員会
 - 第2回(3月26日)プレスブレーキ及びプレスのISOの状況報告、JIS化の進捗状況、MFエコマシン認証制度基準変更についての審議承認についてなど。
- ISO/WG1-PB対策委員会
 - 第13回(2月1日 オンライン)DIS投票へのコメント、第30回国際会議についてなど。
- JIS B 6411 規格群原案作成委員会
 - 第3回(2月13日 +オンライン)第1部の審議結果のフォロー、第2部及び第3部のコメントの審議についてなど。

- JIS B 6411 規格群原案作成委員会 分科会
 - 第2回(1月17日 オンライン)第1部の追加コメント、第2部及び第3部のコメントに対する対応についてなど。
 - 第3回(3月22日 オンライン)第2部及び第3部の追加のコメントに対する対応、JIS B 6410(サーボプレスの安全)の廃止の可否の検討など。
- 広報見本市委員会
 - 第2回(2月28日 オンライン)MF-TOKYO 2025メインビジュアルの選定についてなど。

専門部会

- 鍛造プレス専門部会
 - 第2回(2月29日)2023-2024年度の新規テーマについて、今後のスケジュールについてなど。
- 油圧プレス専門部会
 - 第3回(3月18日)「油圧プレス導入ブック」(仮名)の掲載内容、今後の進め方とスケジュールについてなど。
- レーザ・プラズマ専門部会
 - 第2回(2月2日 オンライン)レーザ機器管理者講習会のパワーポイント発表資料修正、「レーザ機器管理者講習会」の集客状況についてなど。
- サービス専門部会
 - 第2回(3月12日)MF スーパー特自検2023年実施状況報告、プレス機械と板金機械の災害事例パンフレット作成についてなど。
- レーザサービス分科会
 - 第22回(2月14日 オンライン)CO₂レーザ加工機定期検査項目の精査について。
- 関連機器専門部会
 - 第2回(2月20日)アイダエンジニアリング様工場見学会。

地区部会

- 中部関西地区部会
 - 第1回(1月26日)理化学研究所 計算科学研究センターにて富岳見学と懇親会など。
- 関東地区部会
 - 第1回(2月16日)JAXA宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター見学と懇親会など。

MFエコマシン認証

- MFエコマシン認証臨時審議会
 - 第48回(3月15日)「制度基準設定チーム」審議内容の説明、認証制度運用規則の改定、認証基準書・提出書類の改定についてなど。
- 「制度基準設定チーム」審議会
 - (1月19日)新基準案での基準機種と認証機種のアンケートに基づく認証可否のシミュレーション結果について、2013年基準の新基準案のネーミングと意匠マークについてなど。

講習会

- レーザ機器管理者講習会(2月21日 機械振興会館)レーザ機器管理者が行うべき業務等に関する講習会。
- サーボプレス技術セミナー(3月14日 機械振興会館B2ホール)EV化に伴うプレス部品の最新加工技術に関するセミナー。

会員退会

- ロス・アジア株式会社(2024年3月末日付)



会報 METAL FORM No.90 2024年4月

発行所/一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階

TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL: https://j-fma.or.jp/

発行人/生田 周作 発行/季刊:1月、4月、7月、10月の4回発行

産学連携、基礎商品講座、自主行動計画を実施 業界の未来に貢献する企画委員会の活動について

日本鍛圧機械工業会 企画委員会 委員長
株式会社 エイチアンドエフ 取締役社長

山田 烈史



産学連携活動が目指すもの

企画委員会では、産学連携推進分科会を設け産学連携に取り組んでいます。今や産学連携の重要性は各社が十分理解されていると思いますが、工業会として共通の課題や困りごとについて連携して研究するにあたっては、人的負担や場所貸しなどでご負担を掛けることにはなるものの、継続して取り組む意義があると思います。

当社でも福井大学や福井工業技術センターなどとも産学官連携に取り組んでいます。技術的側面でバックアップしてもら一方で、リクルートの側面もあります。学生に人気のある仕事の中に鍛圧機械は入っておらず、学生に鍛圧機械や塑性加工などに興味を持ってもらうには、個別の企業であろうが工業会であろうが産学連携活動は意味があると思います。

産学連携活動で感じたのは、『次に何をやるか?』といったテーマありきではなく、テーマを無理やり決めずに前向きな視点で取り組んでいき、そこから様々なテーマが生まれれば良いのではないかと思います。そして、産学連携や官と繋がっていく中で、将来的な「産業ビジョン」の策定を目指して行ければと考えています。また、最初から確実な成果を求めるのではなく、いろいろな活動に光を当て、その結果思いがけないことが起こりブレイクスルーのきっかけになるのではないかと願っています。

若い技術者を中心とした「基礎商品講座」

企画委員会では、プレス機械・板金機械・フォーミング機械の3つの基礎商品講座チームを

編成し、入社3年目から5年目位の若手社員を対象に「基礎商品講座」を4月18日と19日の二日間にわたり、実施します。本来の業務以外のところで大変なご尽力をいただいた基礎商品講座チームの方々には心より感謝しております。この講座を通して業界全体の連携を醸成することができ、特に技術系の人たちにとってはとても興味のある講座として、若手のモチベーションが上がることを期待しています。今までなかった知見に気づき、知識が増えていくことは若い技術者にとっては大切なことです。今後この活動をもっと多くの人に広めていければと考えています。また、講座に参加できなかった人たちも見ることができるような方法、例えばWEBの活用などがあればさらに広がりが増えるのではないかと考えています。

自主行動計画でより良い環境づくりを目指す

日本鍛圧機械工業会は「取引適正化」と「物流の適正化」の自主行動計画を打ち出しましたが、まさに時代の要求といえるものです。人口減少、働き方改革、コンプライアンスなど今の日本は大きな課題を抱えています。日本の慣習の中で、良くない商取引などを国際標準に合わせて『適正な社会にしていきましょう、良い方向に進めていきましょう』ということは重要なテーマといえます。この自主行動計画をプラスに転換していき、業界全体のより良い環境づくりを目指していくことが私たちの目標です。

(談)

2024暦年と2024年度の受注予想

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 調査統計委員会が作成

2024暦年の鍛圧機械受注予想は、
前年見通しを若干下振れの3,670億円と予想。
前半は世界経済の低迷の影響は避けらず、
後半に回復を見込み、2023年と同水準と見る。



調査統計委員会 委員長
住友重機械工業株式会社
執行役員 産業機器事業部長
富永 浩之

日本鍛圧機械工業会 調査統計委員会は、各委員の予想を集計し算出した2023年(暦年・年度)の受注見込額と2024年(暦年・年度)の受注予想を作成した。(2023年12月27日)

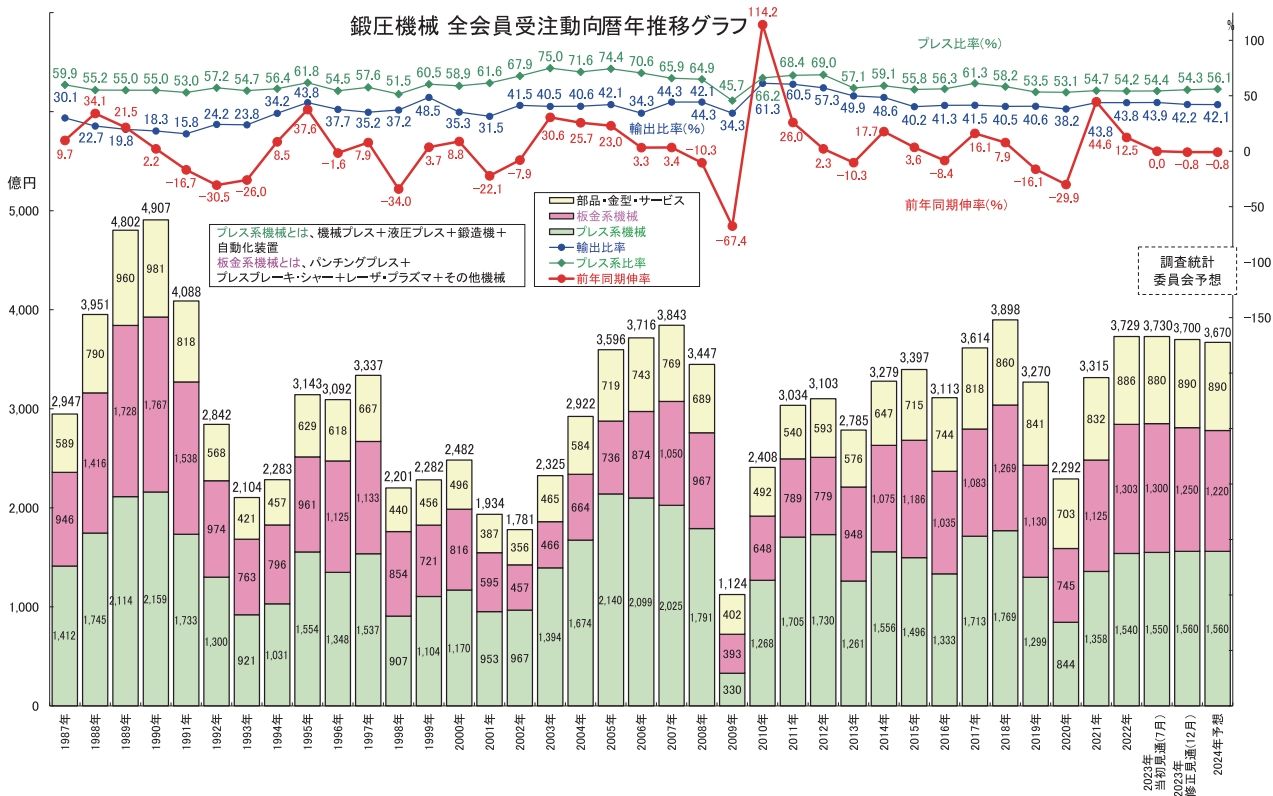
▶ 日鍛工 調査統計委員会2023暦年受注見通し & 2024暦年受注予想 一般社団法人日本鍛圧機械工業会 2023年12月27日

概況：2023暦年の受注見通しは3,700億円、前年比0.8%の微減とみた。コロナも5類に移行し、ほぼすべての経済活動が元に戻って、国内ではその反動もあり、設備投資での回復基調がみられたが、後半は海外、特に中国経済の減速、ウクライナ侵略の長期化、加えて中東紛争と地政学リスクによるマイナス要因が影響して輸出での減速が見られた。この傾向は2024年の前半までは続くと予想され、足枷となると考えられる。一方で2024年後半からの半導体生産の回復の期待や、自動車関連でのEV化に向けた積極投資も地域的にはまだ続くともみられる。2024年は3,670億円と2023年に比し、若干の下振れで推移するものと予想。

機種別：2023暦年のプレス系は1,560億円、前年比1.3%増とみた。国内・海外ともに自動車のEV化対応に加え、OEM、Tier1における大型機械の投資も重なった。一方で板金系は1,250億円、前年比4.0%減とみた。国内は各種経済政策等による景気の下支えもあったが、半導体装置関連の低迷、世界経済低迷による輸出減が影響した。2024年はプレス系、板金系ともに国内頼みで社会インフラ、デジタル関連、建材向に、引続きEV化への自動車関連設備投資が期待され、海外向けは、インド・東南アジアでの需要回復が期待できる。プレス系は2023年横ばい、板金系は若干のマイナスと予想。サービスは2023年は890億円、前年比0.4%増、2024年も横ばいと予想。

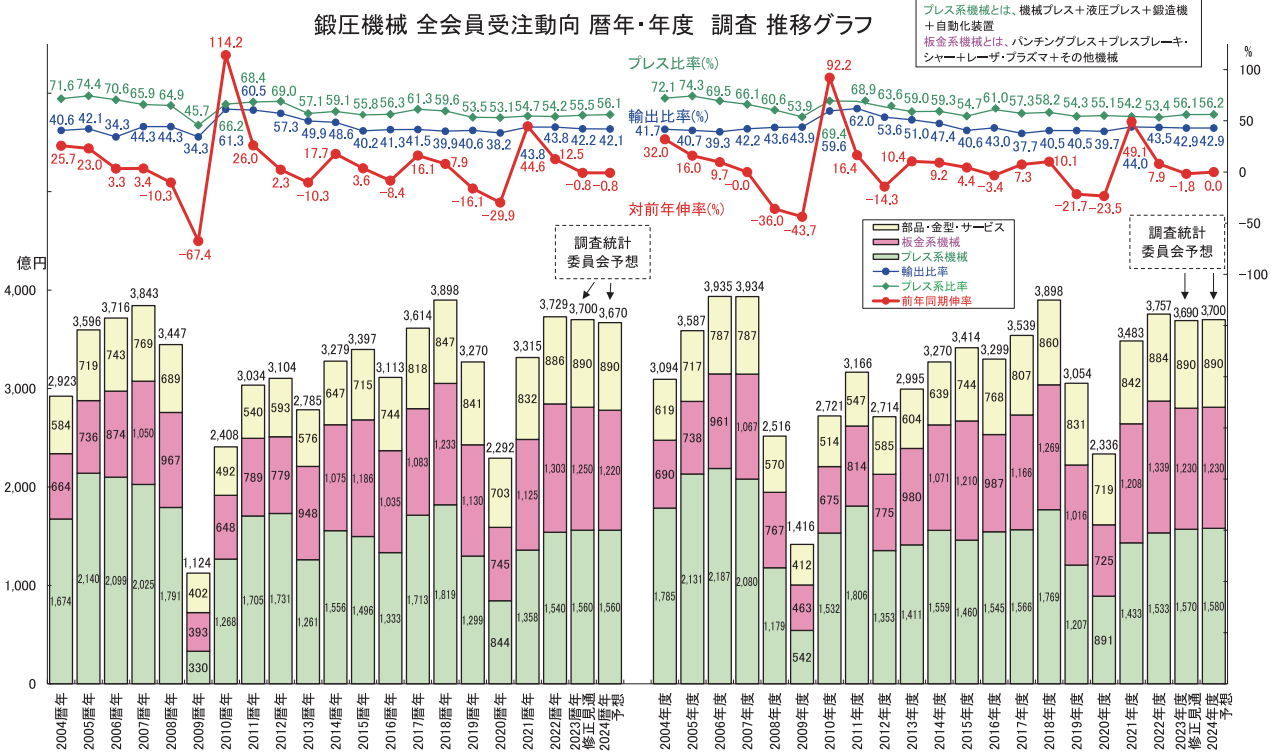
国内：2023年の国内は1,625億円、前年比1.6%増とみた。2024年は1,610億円、前年比0.9%減と予想。国内では政府による経済対策の下支えと、自動車のEV化、デジタル関連及び社会インフラ再整備等への投資が引き続き期待される。

輸出：2023年の輸出は1,185億円、前年比4.7%減とみた。2024年は1,170億円、前年比1.3%減と予想。中国・欧米でのEV化設備投資も一服感があり、一方でASEAN、インド等新興国の回復が期待できる。



日鍛工 調査統計委員会2023暦年・年度見通し & 2024暦年・年度予想 一般社団法人日本鍛圧機械工業会 2023年12月27日

コメントについては、2023暦年受注見通し&2024暦年受注予想を参照。

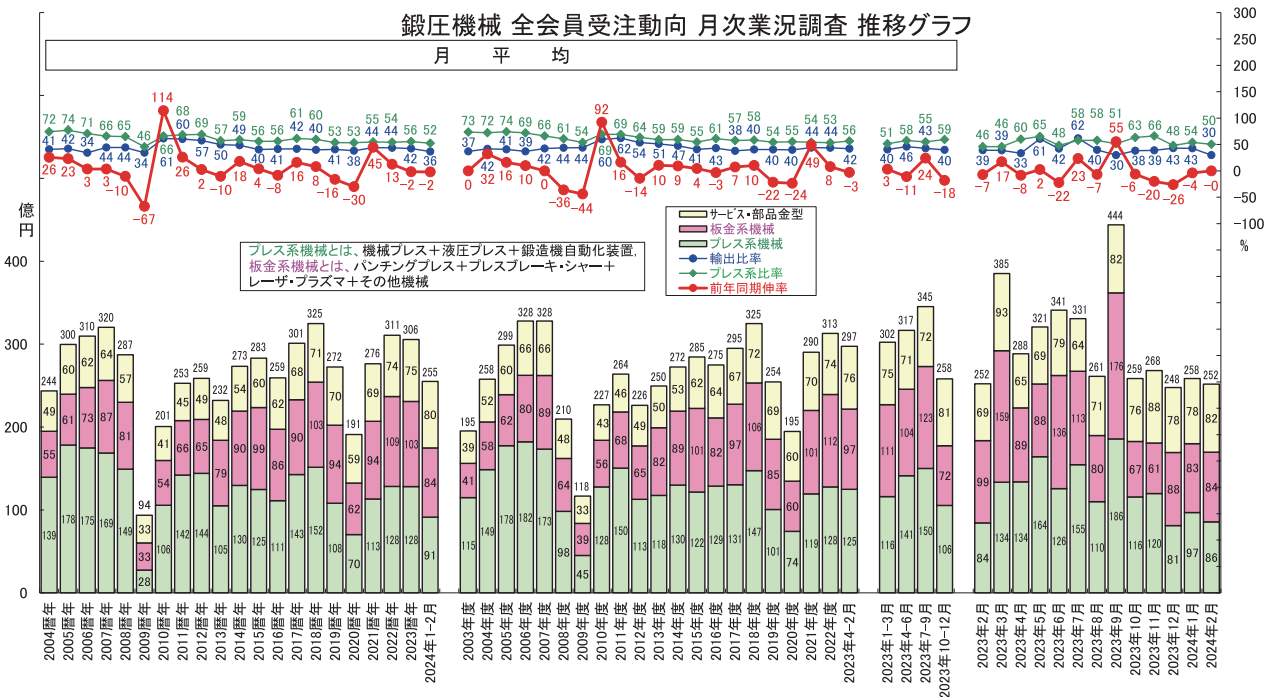


鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

一般社団法人日本鍛圧機械工業会 2024年3月8日

2024年2月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント

- 概況：受注総合計は251.8億円と、前年同月比で0.2%の微減となった。プレス系とサービス系はプラスとなったが、板金系がマイナスであった。プレス系、板金系ともに輸出がマイナスとなり、世界経済全体での低迷が影響しているものと考えられる。一方、国内においては比較的堅調に推移している。
- 機種別：プレス系機械が85.6億円と1.5%の増となった。特に油圧プレスが2.9倍増でフォーミングも11.1%増となったが、超大型・大型・中型・小型プレスはマイナスとなった。板金系機械は84.1億円と15.3%の減となった。ブレーキは9.2%増であったが、パンチング3.2%減、レーザ・プラズマも47.1%の減であった。サービス系は19.7%の増であった。
- 内外別：国内は119.2億円と6.9%の増であり、鉄鋼3.5倍増、一般49.0%増、輸送3.4%増で、金属、電気がマイナスであった。輸出(機種計)は50.5億円、29.9%の減であった。インド向4.1倍増、東欧向も増、北米向23.1%減、中国向97.4%減、欧州、韓国・台湾、東南アジア向けもマイナスとなった。



令和6年度、令和5年度補正 経済産業省関係予算と税制改正について

新年度等予算、税制改正のうち、多くの製造事業者に関係する主な補助金などを紹介します。また税制改正では、賃上げを促進する税制が抜本的に強化されています。ご一読ください。※令和6年度予算の成立を前提としており、事業実施には当該予算の国会での可決・成立が必要となります。

補助金

1. 省エネ補助金【令和5年度補正：1,160億円】（2事業に分けて実施）

- ① 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金【910億円】
（工場・事業場型、電化・脱炭素燃転型、エネルギー需要最適化型の3事業区分）
 - ② 省エネルギー投資促進支援事業費補助金【250億円】（設備単位型、エネルギー需要最適化型の2事業区分）
- ※ 執行団体：一般社団法人 環境共創イニシアチブ (SII)

省エネ補助金の累計	
(I) 工場・事業場型 ※従来のA類型(先進事業)とB類型(オーダーメイド型事業)	
■ 事業概要	
工場・事業場全体で、機械設計が伴う設備又は事業者の使用目的や用途に合わせて設計・製造する設備、先進型設備等の導入を支援。 生産ラインの入れ替えや集約など、工場・事業場全体で大幅な省エネ化を図るものを補助。	
【省エネ効果の要件(先進要件)】	
①省エネ率+非化石割合増加率:10%以上 (省エネ率+非化石割合増加率:30%以上)	
②省エネ量+非化石使用量:700kl以上 (省エネ量+非化石使用量:1,000kl以上)	
③エネルギー消費原単位改善率:7%以上 (エネルギー消費原単位改善率:15%以上)	
【補助対象経費】	設備費・設計費・工事費
【補助率】	中小企業等:1/2以内 (先進型設備等を導入し、先進要件のいずれかを満たす場合、2/3以内) 大企業・その他:1/3以内 (先進型設備等を導入し、先進要件のいずれかを満たす場合、1/2以内)
【補助金限度額】	■上限:15億円/年度 (非化石転換は20億円/年度) ■下限:100万円/年度 ※複数年度事業の上限額は20億円(非化石転換は30億円) ※連携事業や、先進要件を満たす複数年度事業の上限額は30億円(非化石転換は40億円)
(II) 電化・脱炭素燃転型 ※R5補正で新設	
■ 事業概要	
化石燃料から電気への転換や、より低炭素な燃料への転換等、電化や脱炭素目的の燃料転換を伴う設備等の導入を支援。 対象設備は(III)設備単位型で指定される下記設備のみ。	
① 産業用ヒートポンプ ② 業務用ヒートポンプ ③ 低炭素工業炉 ④ 高効率コージェネレーション ⑤ 高性能ボイラ 主に中小企業の活用を念頭に、 脱炭素につながる電化や燃料転換を伴う設備更新を補助。	
【省エネ効果の要件】	電化・脱炭素目的の燃料転換を伴うこと。(ヒートポンプで対応できる低温域は電化のみ)
【補助対象経費】	設備費(電化の場合は付帯設備も対象) 【補助率】1/2以内
【補助金限度額】	■上限:3億円(電化の場合5億円) ■下限:30万円
(III) 設備単位型 ※従来のC類型(指定設備導入事業)	
■ 事業概要	
予め定めたエネルギー消費効率等の基準を満たし、補助対象設備として登録及び公表した指定設備を導入。 より中小企業が使いやすいよう、 リストから選択する機器への更新を補助。	
【省エネ効果の要件】	予め定めたエネルギー消費効率等の基準を満たす設備を導入すること。
【補助対象経費】	設備費 【補助率】1/3以内
【補助金限度額】	■上限:1億円 ■下限:30万円

上記に加え、「(IV) エネルギー需要最適化型」があり、各型との組合せ、又は、単体での使用が可能。

→**いずれの類型も複数年の投資計画に対応。**

2. 中小企業省力化投資補助事業（中小企業等事業再構築促進事業を再編）【令和5年度補正：1,000億円】

事業内容とスキーム	
■ 事業概要	<p>中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするために、人手不足に悩む中小企業等に対して、省力化投資を支援する。これにより、中小企業等の付加価値額や生産性向上を図り、賃上げにつなげることを目的とし、IoT、ロボット等の人手不足解消に効果がある汎用製品を「カタログ」に掲載し、中小企業等が選択して導入できるようにすることで、簡易で即効性がある省力化投資を促進。</p>
【申請類型】	省力化投資補助枠(カタログ型)
【補助上限額】	<p>従業員数5名以下：200万円(300万円) 従業員数6～20名：500万円(750万円) 従業員数21名以上：1,000万円(1,500万円)</p> <p>※賃上げ要件を達成した場合、()内の値に補助上限額を引き上げ。</p>
【補助率】	1/2

3. 中小企業生産性革命推進事業【令和5年度補：2,000億円】

本事業は4つの補助事業で構成されています。本稿では、ものづくり補助金にフォーカスして紹介します。

事業概要				
■ 事業概要				
(1) ものづくり・商業・サービス生産性向上促進事業 （ものづくり補助金）	中小企業等が行う、革新的な製品・サービスの開発、生産プロセス等の省力化に必要な設備投資等を支援する。			
(2) 小規模事業者持続的発展支援事業 （持続化補助金）	小規模事業者等が自ら経営計画を作成して取り組む販路開拓等の取組を支援する。			
(3) サービス等生産性向上IT導入支援事業 （IT導入補助金）	中小企業等の労働生産性の向上を目的として、業務効率化やDXの推進、サイバーセキュリティ対策、インボイス制度への対応等に向けたITツールの導入を支援する。			
(4) 事業承継・引継ぎ支援事業 （事業承継・引継ぎ補助金）	事業承継・M&A・グループ化後の新たな取組（設備投資、販路開拓等）や、M&A時の専門家活用費用等を支援する。			
	生産プロセス改善等の取組	製品・サービス開発の取組		海外需要開拓等の取組
	省力化 (オーダーメイド)枠	製品・サービス高付加価値化枠		グローバル枠
		通常類型	成長分野進出類型 (DX・GX)	
要件	省力化への投資	製品・サービスの 高付加価値化	DXやGXに資するもの	海外事業の拡大・強化に 資するもの
補助 上限	750万円～8,000万円	750万円～1,250万円	1,000万円～2,500万円	3,000万円
補助率	1/2 ※小規模・再生事業者2/3 ※1,500万円までは1/2、 1,500万円を超える部分は 1/3	1/2 ※小規模・再生事業者 2/3 ※新型コロナ加速化特例 2/3	2/3	1/2 ※小規模2/3
対象 経費	<p><全枠・類型共通> 機械装置・システム構築費（必須）、運搬費、技術導入費、知的財産権等関連経費、 外注費、専門家経費、クラウドサービス利用料、原材料費。 <グローバル枠のみ> 海外旅費、通訳・翻訳費、広告宣伝・販売促進費も利用可能。</p>			

令和6年度、令和5年度補正 経済産業省関係予算と税制改正について

税制

■賃上げ促進税制の拡充及び延長

30年振りの高い水準の賃上げ率を一過性のものとせず、構造的・持続的な賃上げを実現する事を目的に、適用期間を2年から3年に延長され、また拡充が図られました。

【適用期間：令和6（2024）年4月1日から令和9（2027）年3月31日までの間に開始する各事業年度】

大企業向け※1

継続雇用者※4 給与等支給額 (前年度比)		税額控除率※6		上乗せ要件① 教育訓練費※7 (前年度比)		税額控除率		上乗せ要件② 子育てとの両立・ 女性活躍支援 税額控除率		最大控除率	
現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正
+3%	+3%	15%	10%	+20%	+10%	5%	5%	—	5%	30%	35%
+4%	+4%	25%	15%								
—	+5%	—	20%								
—	+7%	—	25%								

中堅企業向け（新設）※2

継続雇用者 給与等支給額 (前年度比)		税額控除率		上乗せ要件① 教育訓練費 (前年度比)		税額控除率		上乗せ要件② 子育てとの両立・ 女性活躍支援 税額控除率		最大控除率	
現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正
+3%	+3%	15%	10%	+20%	+10%	5%	5%	—	5%	30%	35%
+4%	+4%	25%	25%								

中小企業向け※3 （中小企業は、賃上げを実施した年度に控除しきれなかった金額の5年間の繰越しが可能。※8）

全雇用者※5 給与等支給額 (前年度比)		税額控除率		上乗せ要件① 教育訓練費 (前年度比)		税額控除率		上乗せ要件② 子育てとの両立・ 女性活躍支援 税額控除率		最大控除率	
現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正	現行	改正
+1.5%	+1.5%	15%	15%	+10%	+5%	10%	10%	—	5%	40%	45%
+2.5%	+2.5%	30%	30%								

※1 「資本金10億円以上かつ従業員数1,000人以上」又は「従業員数2,000人超」のいずれかに当てはまる企業は、マルチステークホルダー方針の公表及びその旨の届出を行うことが適用の条件。それ以外の企業は不要。

※2 従業員数2,000人以下の企業（その法人及びその法人との間にその法人による支配関係がある法人の従業員数の合計が1万人を超えるものを除く。）が適用可能。

ただし、資本金10億円以上かつ従業員数1,000人以上の企業は、マルチステークホルダー方針の公表及びその旨の届出が必要。

※3 中小企業者等（資本金1億円以下の法人、農業協同組合等）又は従業員数1,000人以下の個人事業主が適用可能。

※4 継続雇用者とは、適用事業年度及び前事業年度の全月分の給与等の支給を受けた国内雇用者（雇用保険の一般被保険者に限る）。

※5 全雇用者とは、雇用保険の一般被保険者に限られない全ての国内雇用者。

※6 税額控除額の計算は、全雇用者の前事業年度から適用事業年度の給与等支給増加額に税額控除率を乗じて計算。ただし、控除上限額は法人税額等の20%。

※7 教育訓練費の上乗せ要件は、適用事業年度の教育訓練費の額が適用事業年度的全雇用者に対する給与等支給額の0.05%以上である場合に限り、適用可能。

※8 繰越税額控除をする事業年度において、全雇用者の給与等支給額が前年度より増加している場合に限り、適用可能。

その他にも「カーボンニュートラル投資促進税制」や「中小法人の交際費課税の特例の拡充及び延長」などもありますので、ホームページ等でご確認ください。 https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2024/pdf/03.pdf

MFエコマシン 認証制度

2023年実績

人と環境に優しい
エコプロダクツの実現を
推進します！

対象製品

プレス機械

サーボプレス、機械プレス、油圧プレス、
フォーミングマシンなど

板金機械

パンチングプレス、プレスブレーキ、シャーリング、
レーザ加工機、プラズマ加工機、パイプベンダー、
スポット溶接機、カシメプレスなど

自動化・関連装置

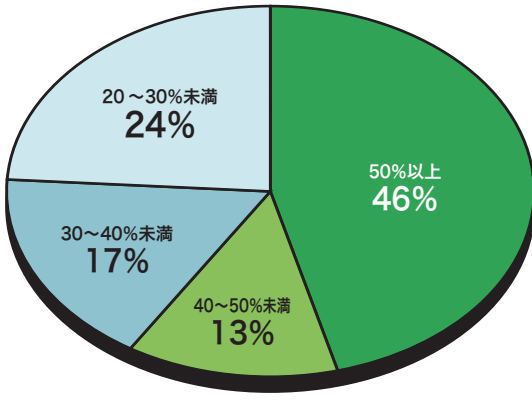
コイルフィーダ、搬送装置など

一般社団法人日本鍛圧機械工業会は2009年4月より、MFエコマシン認証制度を発足させ、10年目となった2019年より、更に省エネ基準をアップさせ、「人と環境に優しい機械」の普及を通じ、地球環境に貢献する運動を展開しています。

MFエコマシンは2000年生産製品に対して最低20%以上のエネルギー消費の削減と省資源や騒音振動の軽減、有害物質不使用などを加味して認証しており、2024年1月1日現在18社36製品160機種が認証されています。

認証マークの商標登録は日本、アメリカ、中国、韓国、台湾、インド、ロシアにて登録完了しています。

● MFエコマシン認証製品の省エネ率による 機種数の分布 (2023年実績)



省エネ率 **69%** (加重平均) 削減電力量 **1,604** 万 kWh CO₂ 削減量 **6,579** ton

認証機の出荷 **1,938** 台 普及率 **32%** となりました。

2000年生産製品に対する認証機の省エネ率の分布です。

MFエコマシン認証制度 認証登録リスト

(2024年1月1日現在、18社36製品160機種)

■製品区分：プレス機械

登録製品名	会員会社名	登録No.	登録機種範囲
機械サーボプレス SDE-13/W/GORIKI シリーズ	アマダプレスシステム	MF-P001	SDE 8018I3、1120I3、1522I3、2025I3、3030I3
		MF-P008	SDEW 2025I3、3025I3
		MF-P023	SDE 1515I3、2017I3、3020I3
機械サーボプレス ダイレクトサーボフォーマ	アイダエンジニアリング	MF-P013	DSF-N2-1100、1600
		MF-P019	DSF-N1-3000
油圧プレス	川崎油工	MF-P006	KEEP-D5000
機械サーボプレス HIFシリーズ	コマツ産機	MF-P007	HIF 35、45、60、80、110-2、150-2、200-2
ボールスクレューサーボプレス	日本オートマチックマシン	MF-P009	SBP 305AS
油圧プレス HYP-Eシリーズ		MF-P017	HYP 505HEP、1000EP
ハイドロフォーム & ペロース成型機	山本水圧工業所	MF-P014	HDL-CHB-40
機械サーボプレス ZENFormer	放電精密加工研究所	MF-P020	MPS4100
油圧ファインブランクングプレス	森鉄工	MF-P021	FBIN-650-FD
機械プレスフォーマ	ティーエスプレジジョン	MF-P022	SF-M150-25、SF-L250-35
機械サーボプレス TA14-0270シリーズ	栗本鐵工所	MF-P024	C2P-20LS
サーボモータダイレクト 油圧プレス		MF-P025	HR4-10SP
エレクトロプレス JP5シリーズ	ジャノメ	MF-P026	JPU-12T5 他 20機種

■製品区分：自動化及び関連装置

登録製品名	会員会社名	登録No.	登録機種範囲
レベラフィーダ	アマダプレスシステム	MF-K002	LCC 06PU
サーボトランスファー	伊達機械	MF-K003	TRFN-3-300

■製品区分：板金機械

登録製品名	会員会社名	登録No.	登録機種範囲
機械サーボパンチプレス Motorumシリーズ	村田機械	MF-B002	M3048TG、M3058TG、M2544TS、M2548TS、M2558TS
油圧サーボプレスブレーキ BHシリーズ		MF-B014	BH13530
パンチング加工機		MF-B003	EMZ3612M2e、EMZ3510M2e、EMK3612M2e、EMK3510M2e、EM3612ZRBe、EM3612ZRTe、EM3510ZRBe、EM3510ZRTe、EMZ3612M2、EMZ3510M2、EM3612ZR、EM3510ZR
油圧サーボプレスブレーキ HG/HRBシリーズ		MF-B004	HG 5020、8025、1003、1303、1703、1704、2203、2204 HRB 5020、8025、1003、1303、2204
機械サーボプレスブレーキ	アマダ	MF-B021	EG6013、EG4010、EGB6013e、EGB4010e、EGB6013ARce、EGB6020e、EGB6020ATCe、EGB8025e、EGB1303e、EGB1303ATCe、EGB1303ARse
ファイバーレーザ加工機		MF-B022	ENSIS3015AJ、VENTIS3015AJ、ENSIS3015AJe、ENSIS3015RJe、ENSIS4020AJe、VENTIS3015AJe、VENTIS4020AJe、REGIUS3015AJe、REGIUS4020AJe
レーザパンチ複合機		MF-B023	LC2512C1AJe、LC2515C1AJe、LC2012C1AJe、ACIES2512BAJe、ACIES2512TAJe、ACIES2515BAJe、ACIES2515TAJe、EMLK2512AJe、EMLZ2512AJe、EMLZ2515AJe、EMLK2515AJe、EMLZ2515AJe、EMLZ2515AJPe、LC2512C1AJ、LC2515C1AJ、ACIES2512AJ、ACIES2515AJ、EML2512AJ、EML2515AJ
油圧プレスブレーキ PBZシリーズ	コマツ産機	MF-B005	PBZ 1253NET、1753NET、2253NET、2254NET
機械サーボプレスブレーキ PASシリーズ		MF-B006	PAS5012NET、5020NET
プラズマ加工機		MF-B007	TFP 510
		MF-B008	TFPL 08
油圧プレスブレーキ PVSシリーズ		MF-B018	PVS8525NET、1353NET、2254NET
サーボシャーリング	相澤鐵工所	MF-B012	ASV-512
ディスクレーザ加工機	トルンプ	MF-B013	TruLaser5030 fiber
レーザ加工機		MF-B016	TruLaser3030
サーボプレスブレーキ トルベンド 5000 B23シリーズ		MF-B020	TruBend 5085、5130、5170、5230
スポット溶接機	向洋技研	MF-B015	NK-08-KGwc、NK-21-HE(V)-KGwc、NK-71HE-KGwc
カシメプレス	ファブエース	MF-B017	FCP-50 i Plus

人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く

「MF技術大賞」は、Metal Forming (MF) に不可欠な鍛圧機械、製品加工と研究などの要素を組み合わせ、プレス・板金・フォーミング専科の世界最高級の大賞です。

鍛圧機械の良さを最終製品の良さに証明するため、機械メーカーと加工メーカーなどの「ものづくり総合力」を獲得されたグループを表彰し、鍛圧加工技術の発展に寄与することを目指します。

●MF技術大賞には表彰金100万円、MF技術優秀賞には表彰金20万円を、MF奨励賞には表彰金10万円をそれぞれ贈呈いたします。●MF技術大賞には表彰金100万円を、MF技術優秀賞には表彰金20万円を、MF奨励賞には表彰金10万円をそれぞれ贈呈いたします。●賞金は2024年12月で、表彰式を2025年1月に行います。●応募要項は2024年4月1日より発行いたします。

主催：一般社団法人日本鍛圧機械工業会
特別協賛：一般社団法人日本塑性加工学会 / 一般社団法人日本鍛造協会 / 一般社団法人日本金属プレス工業協会 / 一般社団法人日本金型工業会

2024-2025 METAL FORMING TECHNICAL GRAND PRIZE MF技術大賞
賞金 100万円
〈応募期間：2024年4月1日～7月31日必着〉

MF新技術賞を新設! 会員企業 単独による新製品・新技術を表彰
「MF新技術賞」は、日本鍛圧機械工業会会員企業が単独で応募できる賞です。技術的新規性が高く、環境対応性・省エネ性の高い高度な新製品・新技術についても製造産業の「ものづくり総合力」の底上げを図る重要な要素であることから、それらの鍛圧機械・技術を広く知らしめることを目指します。

賞金 10万円

MF-TOKYO 2025 第8回プレス・鍛造・フォーミング展 MFエコマシソン認証機関 MF技術大賞

MF技術大賞 2024-2025

4月1日から募集開始! 奮ってご応募下さい!

「MF技術大賞」は、Metal Forming (MF) に不可欠な鍛圧機械、製品加工、研究などの7つの要素を組み合わせ、鍛圧機械の世界最高級の大賞です。高精度・高生産性ならびに安全・環境性能を顕著に有するトータルでエコな製品製作の成果を国内外に発信し、鍛圧塑性加工技術の発展に寄与することを目指します。鍛圧機械の良さを最終製品の良さに証明するため、鍛圧機械メーカーと加工メーカーなどの「ものづくり総合力」を発揮されたグループを表彰します。

MF技術大賞制度 運営スケジュール (予定)

- MF技術大賞応募期間 <2024/4/1 ~ 7/31>
製品加工メーカー・鍛圧機械メーカー等が応募代表者となる会員企業と応募
- 応募内容確認期間 <2024/4/1 ~ 7/31>
日鍛工が応募内容を確認
- 受賞候補を選出 <2024/10>
予備審査部会で受賞候補を選出
- 受賞者の決定 <2024/11or12>
選考委員会で受賞者の決定、理事会の承認
- 表彰式 <2025/1>
賀詞交歓会に併設する表彰式にて表彰盾・賞金の贈呈
- 受賞製品展示: MF-TOKYO 2025
受賞製品/パネルを MF-TOKYO 2025 に展示

- **応募期間** 2024年4月1日～7月31日 日本鍛圧機械工業会 事務局 必着。
- **応募方法** 日本鍛圧機械工業会会員が応募代表者となり、応募案件を満たすと判断したら応募案件の構成要素をとりまとめて所定の応募書類様式に記入し、日本鍛圧機械工業会事務局に2部提出してください。
※応募書類様式は日本鍛圧機械工業会ホームページ(会員ページ)よりダウンロードできます。
<https://j-fma.or.jp>
- **応募製品** 鍛圧機械等(レーザ切断機、プラズマ切断機を含む)を使って加工した製品で、次の内容を満たすものとします。
 - ① 技術面での獨創性、新規性を有し、産業界の発展および労働環境・地球環境向上への貢献の観点からトータルで顕著な成果をあげていることが第一条件となります。
 - ② 「鍛圧機械」と「製品加工」を必須とし、「研究」「素材」「金型」「システム」「製品組立」等も選択出来ます。応募は2社2要素以上が必要です。但し、1社1要素とは限定しません。
 - ③ 対象となる加工製品は、生産開始後概ね10年以内であり、販売実績(試作品を除く)を有することとします。現在も生産中か否かは問いません。
 - ④ 海外からの技術導入、助成金や補助金を受けて研究・開発したもの、他の表彰を受けたもの等の如何は問いません。
- **選考方法**
 - ① 予備審査部会において内容確認、評価・受賞候補の選考を行います。
 - ② 予備審査の結果を受けて下記掲載の委員からなる選考委員会で最終選考を行い、理事会において承認し決定します。
 - ③ 工場等の現地審査は行いません。

MF技術大賞：原則3件以内を表彰いたします。賞金はそれぞれ100万円です。
MF技術優秀賞：原則3件以内を表彰いたします。賞金はそれぞれ20万円です。
MF奨励賞：今後MF技術大賞およびMF技術優秀賞に値する事が期待される案件を表彰します。
- **主催** 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会
特別協賛 ● 一般社団法人 日本塑性加工学会 ● 一般社団法人 日本鍛造協会
● 一般社団法人 日本金属プレス工業協会 ● 一般社団法人 日本金型工業会
- **応募書類の提出先/お問い合わせ先**
一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 事務局 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館3階
TEL.03-3432-4579/FAX.03-3432-4804 E-mail:info@j-fma.or.jp

日鍛工会員企業単独で応募いただける「MF新技術賞」が今回から新設されました！
「MF新技術賞」も4月1日より募集開始します。

MF技術大賞の応募はちょっと難しい・・・

MF 技術大賞は、応募代表者(会員企業)と共同応募者(お客様)による応募形式で、評価はお客様が製造する製品(部品)の良さで評価し、もって鍛圧機械の優秀さを証明とするものです。他に類を見ないユニークな表彰制度ですが、お客様の製品は部品である事が多く、お客様の発注先からの許可を得られず、応募に至らないケースが多いと聞きます。

MF新技術賞は、日鍛工会員企業単独での応募を可能とする新しい賞です。

MF 新技術賞は二つの部門で応募できます。

■MF新技術製品部門

- ・新製品関連：1号機が納品もしくは受注してから概ね4年以内であり、従来機種と比べて顕著な進化があること。
- ・新工法・機構関連：自社の従来技術に比べて大幅な生産性アップ、工程短縮、コストダウン、品質向上などがあること。
- ・その他新技術関連：これまでに無い技術・製品について明確に解る様にアピールすること。

■MF新技術環境部門

- ・CN(カーボンニュートラル) 関連：自社の従来製品に対して大幅な電力の削減が実施できていること。
- ・環境対応関連：例えばオイルなどの産業廃棄物排出が大幅に減量されること、また機械稼働時における作業環境や作業者の安全が従来に比べ劇的に改善されたこと。
- ・その他環境技術関連：これまでに無い環境(作業環境も含む)技術について明確に解る様にアピールすること。

■表彰内容

製品部門と環境部門でそれぞれ表彰し、表彰盾と副賞として10万円を贈呈。

- ① 会長名で各応募者に通知するとともに、関係各紙にニュースリリースを発信し、日本鍛圧機械工業会ホームページおよび会報「METAL FORM」で公表します。
- ② 表彰盾および副賞は、2025年の賀詞交歓会に併設するMF技術大賞表彰式後に受賞者に送付します。
- ③ 事務局にて受賞製品パネルを作成し、表彰式会場とMF-TOKYO 2025において展示します。
- ④ 事務局にて受賞ステッカーを作成し、希望する受賞者に贈呈します。

■応募方法

応募は日本鍛圧機械工業会会員であること。所定の応募書様式に記入し、

日本鍛圧機械工業会事務局に2部提出してください。

※応募書類様式は日本鍛圧機械工業会ホームページ(会員ページ)よりダウンロードできます。

※応募様式の記入例もホームページに掲載します。

日鍛工会員各位の奮っての応募をお待ちします！

MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展

人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く

2024年7月1日より
**出展受付を
開始します!**

会 期：2025年7月16日（水）～19日（土）

会 場：東京ビッグサイト 東ホール

MF-TOKYO は、鍛圧機械（プレス・板金・フォーミング・自動化・周辺機器）の国際展示会として2009年に初開催しました。本展は、ドイツと並び世界で製造産業をけん引する日本の最先端の機械や技術を紹介し、わが国の鍛圧機械産業の発展を目的としています。

MF-TOKYO 2025の副題を「人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く」としました。前回は『人と地球にやさしい技術』を謳いましたが、この文言がカーボンニュートラル（CN）やSDGsの達成に向けた“思い”を端的に表していると言うことで継続することとなりました。

ご出展を検討される各位におかれましては、昨今のCNやSDGsへの対応に苦慮されていると推察します。鍛圧機械自体での環境目標の達成・実現はなかなか困難だとしても、ユーザ様にとっては、工法転換などで大幅な省エネを可能とする鍛圧機械への期待は大きいものと考えます。

ぜひ各位の優れた製品や技術をご出展頂き、本展示会を情報発信・商談の場としてご活用頂ければと思います。関係各位のご参加を心よりお待ちしております。



MF-TOKYO 2025 ポスターデザイン案

開催概要

副 題：人と地球にやさしい技術、持続可能な未来を築く
会 期：2025年7月16日（水）～19日（土）
開催時間：10:00～17:00（最終日は16：00まで）
会 場：東京ビッグサイト 東4・5・6・7・8ホール
主 催：日本鍛圧機械工業会 / 日刊工業新聞社
目標小間数：1,800小間
目標来場者数：32,000人以上（うち海外来場者1,300人）

スケジュール

2024年 6月 20日（木）	MF-TOKYO 公式サイトオープン 日鍛工業会へ出展案内発送
2024年 7月 1日（月）	出展受付開始 早期出展申込割引の受付開始。 なお、申込多数の場合、早期申込期限内に終了となる場合がございますので、ご注意ください。
2024年 10月 31日（木）	早期出展申込期限 以降の出展に対し早期割引は適用しません。
2024年 11月 29日（金）	早期申込金支払期限 上記期限内に早期申込金のお支払いがない場合、早期割引の適用から外し、通常料金のお支払いとなります。
2024年 12月 20日（金）	最終申込期限
2025年 1月 31日（金）	出展料金最終支払期限
2025年 2月 7日（金）	出展者説明会 オンラインでの開催を予定しています。出展担当者の方は必ずご出席ください。本説明会では、搬入搬出作業、装飾施工、防火・防災の管理、電気工事、感染症対策などについての諸規定・諸注意を「出展マニュアル」をもとにご説明いたします。
2025年 6月 6日（火）	各種届出提出期限
2025年 7月 12日（土） ～ 15日（火）	搬入・装飾施工
2025年 7月 16日（水） ～ 19日（土）	会期（19日終了後 搬出・撤去）
2025年 7月 20日（日）	搬出・撤去

澁谷工業株式会社

本社 〒920-8681 石川県金沢市大豆田本町甲58
 担当：サイラス本部 西日本営業部 西多 誠
 TEL. 076-263-8111 e-mail：sl-info@shibuya.co.jp
 URL：https://www.shibuya.co.jp

テレスコープカバー構造の採用により、装置正面・左右側面・上部から材料のセッティング、加工製品の取出しが可能

1.開発の背景

国内で販売されているファイバレーザ加工機は、大型の機種が多く、炭酸ガスレーザ加工機からの入替を検討しているユーザや設置可能スペースが小さいユーザ向けにコンパクトな加工機の開発に取り組んだ。2022年に加工範囲が4尺×4尺の加工機の販売を開始し、2023年に一般板金向けに加工範囲が4尺×8尺のSPF4125型を開発、販売を開始した。

2.新製品の特徴

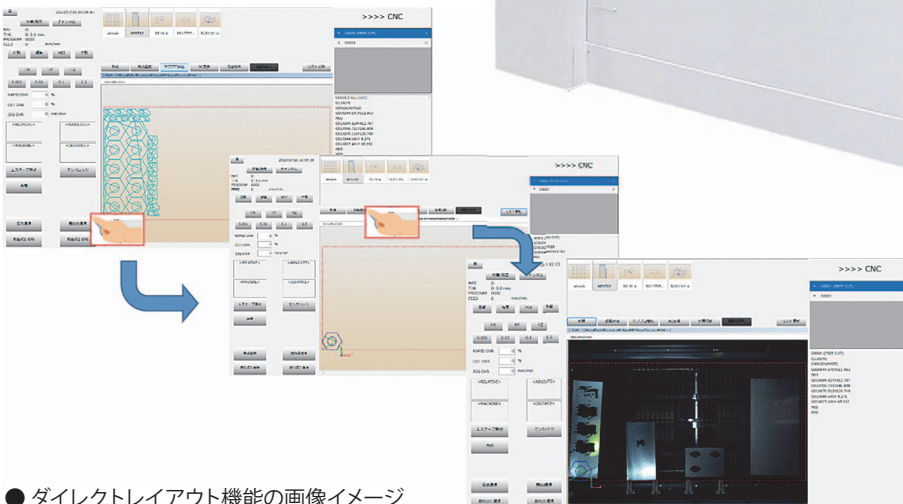
- ①加工範囲4尺×8尺のファイバレーザ加工機としては、世界最小クラスの設置面積。
- ②加工機の4面から材料の出し入れが可能なテレスコープカバー構造を採用（ボタン操作で自動開閉、手動開閉も可能）
- ③PUSH & PULL 式集塵機能の付加により、エアの流れを作ることで集塵効果を向上。
- ④レンズ交換無しで、ステンレス材 0.1mmから鉄材 12mmの加工が可能。
- ⑤ダイレクトレイアウト機能（オプション）により、加工テーブル上のスケッチ材サイズを画像カメラで認識し、パーツのネスティングが可能。
- ⑥操作盤は、角度調整が可能な大型ディスプレイを採用（自立型）

3.開発/技術のポイント

今回の開発で最も注力したことは、“省スペース”の実現。当社には、ハイブリッド型の一般板金向けファイバレーザ加工機はラインナップしているが、フルカバーが大きくなり、設置面積も大きくなる。世界最小クラスの設置面積を実現する為、ビームフライング型でテレスコープカバー構造を採用した。4方面からのアプローチが可能で作業性も向上する。開発にあたっては、3D CAD を用い、設計・営業・生産・製造の各部署が意見、要望を出し合い、機能面に加え、作業性や安全性を十分に考慮した。ダイレクトレイアウト機能の開発にあたっては、画像精度を高め、加工する製品の配置精度の向上に努めた。



●2次元ファイバレーザ加工機
SPF4125/SFX2000D



●ダイレクトレイアウト機能の画像イメージ

報告Ⅰ 日本鍛圧機械工業会 レーザ機器管理者講習会を実施。

日本鍛圧機械工業会のレーザ・プラズマ専門部会(部会長：勝田 宏也 澁谷工業株式会社 執行役員)は、2月21日(水)に「レーザ機器管理者講習会」を機械振興会館(東京、港区)で開催した。本講習会は、レーザ加工機を実際に使用するユーザーを対象としたもので、関東圏だけでなく愛知県や兵庫県などの遠方からの参加も多く、27名が聴講された。レーザ・プラズマ専門部会から西山氏(アマダ)、森川氏(トルンプ)、

丸山氏(小池酸素工業)の3名が講師を務め、「レーザ光線による障害防止対策要綱」(厚生労働省 平成17.3.25 基発第0325002号)に定められている「レーザ機器管理者」の方が行うべき業務について中心に解説・説明が行われた。聴講者には修了書が授与され、閉会後も講師に熱心な質問が交わされ、講習会に対するアンケートでも「大変良かった・良かった」が9割を超える高評価で、充実した講習会となった。



●開講の挨拶をする勝田レーザ・プラズマ専門部会長



●レーザ機器管理者講習会風景

報告Ⅱ 日本鍛圧機械工業会主催「第3回サーボプレス技術セミナー」を開催。

西村 尚先生(東京都立大学 名誉教授)の企画による「第3回サーボプレス技術セミナー-EV化に伴うプレス部品の最新加工技術-」が、3月14日(木)に機械振興会館(東京都港区)の地下2階ホールで開催された。10:00から16:30までの長時間に亘る大型セミナーで、司会は、午前の部を高橋 進先生(日本大学 特任教授)、午後の部を楊 明先生(東京都立大学 教授)が務められた。冒頭、西村先生からEV化に伴うプレス部品の最新加工

技術の動向が示され、その後8名の講師陣による講演が行われた。日鍛工会員のプレス機械メーカーからはモーターコアの打ち抜き加工や燃料電池用金属セパレータ加工におけるプレス機械の能力や実績などを始め、精密プレス加工メーカーによる具体的な加工事例紹介や軽量化に関する技術などが紹介された。参加者は110名で質疑応答も活発に交わされ、最後まで熱心に聴講する姿が印象的であった。



●講演される西村 尚先生



●サーボプレス技術セミナー会場風景

日本塑性加工学会 第357回 塑性加工シンポジウム 「スマート工場に向けたDX」～センシング技術の最新活用事例～の開催案内 〈2024年度塑性加工春季講演会併設企画〉

一般社団法人 日本塑性加工学会は、最新のセンシング・DX 技術の活用事例の紹介や、これら技術の応用と実装に関する情報を共有し、持続可能でスマートな工場の構築に向けた未来を展望するシンポジウムを開催します。奮ってご参加ください。

■日時: 2024年5月16日(木) 13:00~16:55

■会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟1階102室
東京都渋谷区代々木神園町3-1 電話:03-3469-2525
(小田急線 参宮橋駅下車 徒歩7分)

■主催: (一社)日本塑性加工学会 (実行:企画委員会)

■定員: 90名(定員になり次第締切ります)

■参加費: 正会員・賛助会員・協賛学協会個人会員: 10,000円
(消費税込み) 学生会員: 5,000円 一般(会員外学生は半額): 15,000円

■申込方法: 学会ホームページ(<http://www.jstp.or.jp>)
【行事案内】ページよりお申込みください。

■お問合せ先: (一社)日本塑性加工学会 TEL.03-3435-8301

■講演内容

13:10~13:45 地域連携スマート金型技術研究センターにおける最新金型研究事例
岐阜大学 吉田 佳典君

13:45~14:20 振動データを用いたプレス加工見える化
(株)リコー 北野 祐子君

14:20~14:55 型内及び型外センシングから見える金型とプレスマシンの挙動
(株)アデック 久野 拓律君

15:05~15:40 金型負荷の可視化による状態診断および寿命管理、金型のヘルスケアについて
(株)ヤマナカゴーキン 金秀英君

15:40~16:15 AEセンシングを活用した加工状態監視と設備診断・評価
埼玉工業大学 長谷 亜蘭君

16:15~16:35 総合討論
司会 (株)ヤマナカゴーキン 牟礼 昌哉君

16:35~16:55 講師を含めた名刺交換会

INFORMATION FILING

新聞報道 から見た 会員動向

日刊工業新聞、日経産業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は、2023年12月7日~2024年3月5日に掲載された記事が対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

日本鍛圧機械工業会+共通

- 鍛圧機械、やや下振れ 来年受注、世界経済の低迷響く
2023/12/29 日刊工業新聞 7ページ 447文字
- 日鍛工、3月にプレス加工セミ
2024/01/11 日刊工業新聞 11ページ 252文字
- 賀詞交歓会/日鍛工会長、「後半上向く」
2024/01/12 日刊工業新聞 3ページ 305文字
- 昨年の鍛圧機械受注、1.7%減 3年ぶりマイナス
2024/01/17 日刊工業新聞 7ページ 794文字

プレス機械系

- コマツ産機
○第66回十大新製品賞/本賞 コマツ産機
2024/02/01 日刊工業新聞 9ページ 986文字
- アイダエンジニアリング
○アイダエンジ、高速精密プレス向けシステム今春投入 稼働情報を管理・分析
2024/01/29 日刊工業新聞 1ページ 661文字
- 第66回十大新製品賞/本賞 アイダエンジニアリング
2024/01/29 日刊工業新聞 12ページ 969文字
- ダイマック
○薄い材料たわみ防ぐ ダイマック、プレス機向け供給装置
2024/01/09 日刊工業新聞 11ページ 525文字
- 森鉄工
○経営ひと言/森鉄工・森孝一社長「佐賀のために」
2023/12/20 日刊工業新聞 35ページ 228文字

板金機械系

- アマダ
○第66回十大新製品賞/本賞 アマダ
2024/01/30 日刊工業新聞 12ページ 969文字
- 相澤鐵工所
○第66回十大新製品賞/中堅・中小企業賞 相澤鐵工所
2024/02/27 日刊工業新聞 9ページ 967文字
- アルファTKG
○アルファTKG、AIで図面データ管理 板金向け、類似を自動検索
2024/01/23 日刊工業新聞 14ページ 622文字
- オーセンテック
○水道水で板金の粉塵・油分除去 オーセンテック、洗浄機を小型・高性能化
2023/12/22 日刊工業新聞 10ページ 375文字
- 小池酸素工業
○小池酸素、新機能を追加/DBC搭載ファイバーレーザー/8、12、18キロワットそろえ
2023/12/12 日刊産業新聞 2ページ 1256文字
- 小池酸素工業が本格販売/水素対応 開先切断ロボ/火災調整、容易に再現
2023/12/13 日刊産業新聞 3ページ 858文字
- 大陽日酸
○大陽日酸、高圧ガス保安教育サービスを高専などに無償提供
2024/02/23 日刊工業新聞 News ウェーブ 21 10ページ 394文字
- ヤマザキマザック
○展望2024/ヤマザキマザック社長・山崎高嗣氏 高機能複合材の採用拡大
2024/01/22 日刊工業新聞 13ページ 945文字

フォーミング機械系・その他

- モリタアンドカンパニー
○モリタアンドカンパニー、都内に協働ロボ営業拠点
2024/02/02 日刊工業新聞 8ページ 349文字
- 山本水圧工業所
○激動の経営/山本水圧工業所(1) 研究機関に試験機納入
2024/01/09 日刊工業新聞 25ページ 993文字

会員外

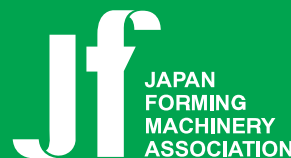
- 三菱電機
○19-36mmの厚板切断…三菱電機が刷新、「大型レーザー加工機」に搭載した技術
2024/03/05 日刊工業新聞ニュースイッチ 923文字

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2024年4月1日現在 五十音順・法人格省略

会員 (110社)

相澤鐵工所	杉山電機システム
アイシス	住友重機械工業
アイセル	ゼロフォー
アイダエンジニアリング	ソノルカエンジニアリング
アサイ産業	大陽日酸
浅野研究所	大東スピニング
旭サナック	大同マシナリー
旭精機工業	ダイマック
アマダ	高千穂システムエンジニアリング
アミノ	タガミ・イーエクス
アルファ TKG	伊達機械
ITACA JAPAN	ティーエス プレシジョン
板屋製作所	東京精密発條
Eプラン	東和精機
エイチアンドエフ	トルンプ
エーエス	中島田鉄工所
エステーリンク	中田製作所
エヌエスシー	ニシダ精機
榎本機工	ニデックドライブテクノロジー
HSG エンジニアリング	日本オートマチックマシン
大阪ジャッキ製作所	能率機械製作所
大阪ロール工機	バイストロニックジャパン
オーセンテック	パスカル
大峰工業	日高精機
オプトン	日立 Astemo
型研精工	ファナック
金澤機械	ファブエース
川崎油工	富士機工
川副機械製作所	富士商工マシナリー
関西鐵工所	フリーベアコーポレーション
ギア	PEM Japan
キャドマック	放電精密加工研究所
キョウシンエンジニアリング	ホンダクリエイティブ
協和マシン	ホルビガー日本
栗本鐵工所	松本製作所
京葉バンド	マテックス精工
ゲルブ・ジャパン	万陽
KH エンジニアリング	三菱長崎機工
小池酸素工業	宮崎機械システム
向洋技研	村田機械
コータキ精機	メガテック
コスメック	モリタアンドカンパニー
コニック	森鉄工
コマツ	ヤマザキマザック
コマツ産機	山田ドビー
コムコ	山本水圧工業所
小森安全機研究所	油圧機工業
阪村機械製作所	ユーザック
阪村ホットアート	ユタニ
サルバニーニジャパン	吉田記念
三起精工	吉野機械製作所
三共製作所	理研オブテック
しのはらプレスサービス	理研計器奈良製作所
澁谷工業	理工社
ジャノメ	レーザ技術サービス



会報 METAL FORM No.90 2024年4月

2024年4月1日発行 No.90 (季刊1,4,7,10の月の1日発行)

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 電話03(3432)4579(代)